

小品文三題。

雨の日。

しとく、と降る雨は、銀絲のやうでみしぼらしい。
堤の柳は常より青々ととして、細長い絲を水面にた
らしている。岡のつゝじは降る雨にもつれて一ツニツ
と雫を落して居る、蛙が何度からか、ぴょんくと
はねて来るのを、軒下で羽をすぼめてゐた雞が、首
をのばして不思議さうに見つめて居た。雨は小止
みなくしく降りつゞけて居る。

僕のしゃくやく。

近頃隣のお爺さんから、しゃくやくの根をいたゞ
いた、僕はうれしさのあまり、朝夕水をまいてくれ
たり、手入れをしたりして、やさしく育てた。若々しい
芽を出して、今朝などはもう二寸ばかりのびたので
も、あつた。しゃくやくも、これから活動しようと思
つてゐるのだらう。

新緑。

緑の花は、頭を下げた夏の山には、此處彼處に、黄色な山吹
の、花は共に、ひげの木にとまって居る、暖かい風が吹
渡ると、共に、飛立った、新緑に囲まれた、百姓家の野
鳴いて、煙がゆたかに昇って行く、かたへの野
に、敷ける若草は何となく可愛らしい。